

令和2年度 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業 作品集作成委員会(第一次審査)

日時：令和2年9月29日(火) 9:00~

会場：南会津合同庁舎 2階会議室 審査員：退職校長会より4名

令和2年度

南会津域内総作品数 1,458点 (絆部門：1,408点 復興部門：50点)

出品率 91.4% (2年連続90%越え!!)

福島県教育委員会では、子どもたちの豊かな心を育成するため、平成14年度から「十七字のふれあい事業」を実施してきました。県内における小中学校の夏休み恒例の課題として根付いており、昨年度までに県全体でおよそ60万5千組、延べ121万人が参加されています。

南会津域内においても、児童生徒が減少してきている中で、作品数こそ減ってきてはいるものの、出品率についてはなんと2年連続で90%を上回るという、本事業に対する思いの強さと関心の高まりが伺えるものとなっています。

さて、当日の作品集作成委員会ですが、退職校長会より4名の審査員をお迎えし、厳正なる審査をしていただきました。どれも素晴らしい作品ばかりで、審査員の先生方もかなり頭を悩ませていました。最終的に選ばれた75作品は県に出品し、その後、第二次審査、最終審査へとつながります。

参加者からの声

- 子どもの想像力を肌で感じる事ができておもしろかった。(小1・父)
- 普段、仕事に家事に忙しいので、こういう機会に親子のつながりを探してみると結構あって、少しホッとしながら書いています。(小3・母)
- 毎年、子どもと何を題材にするか話し合う「ふれあい」の機会になっています。(小5・母)
- 子どもが十七字でどんな「絆」を表すのか楽しみです。(小6・母)
- 毎年考える楽しみがある十七字。皆さんの作品を見て、のちにその年のことを思い出したりもしています。(中3・父)

審査員から一言

- 現代的テーマ(コロナ、ECOなど)での作品が多く見られ、今までとは違った視点からの作品に仕上がっていた。
- 親子ばかりではなく、対祖父母・兄弟姉妹で詠んだ作品が増えてきている。
- コロナ禍にもかかわらず多くの作品が集まり、本事業のすばらしさがうかがわれた。
- 今年も楽しく明るく、そして切なさといった温かい人と人との心の交流を通して感動を味わうことができた。
- 題材は良いが、17音の中で表現できずに作品としてマイナスになってしまうものがあった。